

中国語初級 b の学生授業評価について

—受講生アンケートの分析—

田 梅

要旨

山口大学では1999年度後期より、共通教育の学生授業評価が施されている。しかし、共通教育の学生授業評価項目には含まれていないが、関心のある事項が筆者には存在する。例えば、受講生がこの授業を履修する動機は何か、受講態度は積極的か、この科目に興味と関心を持っているか、採用している教科書に満足しているかなどは、筆者の担当している授業が選択科目であることから、特に興味のある事項である。そこで、上記の点についての自主的なアンケートを実施し、その結果を分析したところ、幾つかの問題点と今後の課題が明らかになった。

キーワード

初級中国語、履修理由と動機、受講態度、興味と関心、学習目標

1. はじめに

「中国語初級 b」は初級外国語として5年前に開講された。人気のある選択必修科目とは言えないが、履修者数は多くなる一方である。学生授業評価も毎学期実施している。

筆者は大学からフィードバックされたアンケート結果以外に、それまで授業中に気になっていた点、この授業に対する思いなど、受講生の生の声を聞き、把握する必要性を感じた。また、学生たちの各回答の間に何か因果関連があるかを明確にしたいと考えた。そこで、人文学部と共通教育で実施されている学生授業評価（アンケート）を参照し、筆者の担当する「中国語初級 b」クラスにアンケート調査を行った。

「中国語初級 b」クラスは週一回90分間の選択必修科目であり、前期が「中国語初級 b 1」、後期が「中国語初級 b 2」という授業科目名である。

2. アンケートの実施

2.1 質問項目

本アンケートの質問は19項目（アンケート内容は添付資料参照）である。内容は中国語レベル、この授業に参加する動機と態度、授業内容に対する評価、教科書の内容についての感想、及び成績の評定などである。

アンケート回答項目は具体的数値を回答する学習時間数や出席率以外に、複数の選択肢から該当するものを選ぶ項目が多い。またアンケートの回答選択肢としてよく見られる「どちらとも言えない」という項目は今回敢えて設けなかった。理由は「どちらとも言えない」という回答は肯定的な評価と否定的な評価のどちらに属するかが曖昧で判断できないからである。

2.2 アンケートの対象者

アンケート対象者は筆者の担当している4つの「中国語初級 b 2」クラスの受講生であり、学部は経済学部、人文学部、工学部である。

後期「初級 b 2」クラスを受講登録者数99名の内、アンケート実施当日の出席者数は96

名であった。学部と性別は表1の通りである。経済学部の学生が一番多く、女子学生より男子学生の方が多い。

表1 アンケート回答人数

学部	男性	女性	合計
経済学部	48	28	76
人文学部	3	9	12
工学部	5	0	5
無回	3	0	3
合計	59	37	96

2.3 アンケート実施時間

アンケート実施日はクラスの授業日によって、11月26日、12月1日、12月2日の三日間で、それぞれ授業の終了前15分間で実施した。

2.4 回収率

回収されたアンケートは96枚であるが、3箇所以上無回答の用紙は無効と処理した結果、有効回答枚数は94枚であった。この数字は受講登録者数の94.9%を占めており、結果の信用性も高いと言える。

3. アンケートの結果と分析

以下、アンケートの質問の順にその結果を分析する。

3.1 この授業を受ける前の中国語の学習歴

アンケート質問の1番目は受講生がこの「中国語初級b」を受講する前の中国語の学習歴を調査したものである。表2のとおり、「全くない」の学生が91名、96.8%を占める。以前習ったことのある2人は再履修の学生である。中国に旅行したことのある1人は3日間だけで、旅行する前に特に中国語を勉強したわけではなかった。このことから受講生のスタートラインは皆同じと言える。(前期中国の北京で10ヶ月留学した学生1人が単位の関

係でこのクラスに入ったが、後期は履修しなかった。)

表2 受講する前の中国語の学習経験

中国語レベル	人数	%
以前習ったことがある	2	2.1
留学した事がある	0	0
全くない	91	96.8
中国に旅行したことがある	1	1.1
合計	94	100

3.2 現在履修している中国語科目

現在1年生向けに開設されている中国語クラスは「中国語初級a・b」と「中国語入門」、「中国会話」の4つである(表3)。

表3 現在履修している中国語科目

履修している科目	人数	%
中国語 初級a	82	87.2
中国語 初級b	94	100
中国語 入門	0	0
中国語 会話	1	1.1
その他	0	0

初級外国語の「中国語初級a」クラスも週一回90分間の選択必修科目である。担当しているクラスの87.2%の学生が「中国語初級a・b」両科目とも履修している。「初級a・b」は本校教師陣により出版されたテキストを採用している。「初級a」は文型・表現編で、原則的に日本人教師が担当し、「初級b」はコミュニケーション篇で、中国語のネイティブ教師が担当している。「初級a, b」両科目で使用しているテキストの単語、文法、難易度はほぼ一致するように工夫されている。このような事情から、受講生のほとんどが「初級a」、「初級b」共に受講している。

3.3 中国語授業を受講する動機

初級外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルが同時に開設されているが、その中からなぜ中国語を選択したのか、その動機について、8つの選択肢を用意した。その中から該当するものを2つ選ぶよう求めた結果、96人中87人(92.6%)が2つの項目を選んだ。その結果は表4の通りである。

表4 中国語授業を受講する動機 (87人)

順位	受講する動機	人数	%
2	先輩や友人に履修を勧められたから	46	52.9
7	専門分野にとって履修することが望ましいから	6	6.9
1	単位取得の関係で、履修する必要があったから	50	57.5
4	中国に以前から関心を持っていたから	24	27.6
3	中国語に漢字があって、勉強しやすいから	25	28.7
6	中国人の友達がいるから	10	11.5
8	中国の歴史、小説、漫画などを読んだことがあったから	1	1.1
5	特別な理由はなくただなんとなく	12	13.8

動機についての1位は「3. 単位取得の関係で、履修する必要があったから」は57.5%で過半数の者がこれを選択した。2位は「1. 先輩や友人に履修を勧められたから」で、これも52.9%と過半数を占める。3位は「5. 中国語に漢字があって、勉強しやすいから」で28.7%、4位は「4. 中国に以前から関心を持っていたから」。5位は「8. 特別な理由はなくただなんとなく」で13.8%、6位の「6. 中国人の友達がいるから」11.5%までが2桁の割合で

ある。

受講動機1位の「3. 単位取得の関係で」と3位の「5. 勉強しやすいから」と5位の「8. ただなんとなく」は、いずれも積極的な学習動機とは言えない。1位の「3. 単位取得の関係で」は100%単位を取るためであり、3位の「5. 勉強しやすいから」もやはり発想は単位を取り易いからということではないか。

5位「8. ただなんとなく」は学習する目的が理解できないが、これもやはり単位数の取得のためであろうと思われる。

それに対して、7位の「2. 専門分野にとって履修することが望ましいから」6.9%及び6人ではあるが、8位の「7. 中国の歴史、小説、漫画などを読んだことがあったから」はある意味、積極的な動機だと思う。

4位の「4. 関心を持っていたから」を選んだ24名の学生は、一年間の中国語の学習を通じて、受講する前に持っている興味に加えて、中国への関心が更に深くなったと思う。

6位の「6. 中国人の友達がいる」という理由で受講する11.5%の10名は中国語を勉強して、中国人との交流を深めようとしており、インターナショナルな目的意識を持っているとも言える。

46人(52.9%)が2位の「1. 先輩や友人の勧めから」を選んだが、先輩、友人の勧める理由は不明である。消極的な理由によるものか、積極的な理由によるものか、分析した結果は表23のとおりである。

一つの動機だけを選択した7人は表4に含まれないが、そのうち3人が「3. 単位取得の関係で、履修する必要があったから」を選び、残り3人が「8. 特別な理由はなくただなんとなく」を、1人が「5. 中国語に漢字があって、勉強しやすいから」をそれぞれ選んだ。

3.4 出席率

「この授業にどれぐらい出席したか」という設問には選択肢が5つあるが、4番、5番を

選択した者は一人もいなかった。結果は表5に示す。72.3%の受講生が90%以上出席した。

出席の取り方は点呼によるものではなく、学生に質問したり、朗読・板書をさせたりなど1回の授業時間内に、全員に発表の機会を与えることで出欠をチェックした。同時に授業中の成績もチェックできた。この授業に4回欠席したら、単位は取れない。3回なら成績が1段階と落とされる(優→良, 良→可)。出欠の状況が成績に反映されている結果、多くの学生が100%出席している。また、欠席がちな者はアンケート実施日も欠席であった。

表5 この授業にどれぐらい出席

出席率	人数	%
90% 以上	68	72.3
80 ~ 90%	18	19.1
60 ~ 80%	8	8.5
40 ~ 60%	0	0
40% 未満	0	0

出席率は理想的だと言える。しかし、出席はしているものの、真剣に授業に臨んでいるとは限らない。質問された時、「何の問題?」、「どのページ?」と隣の学生に尋ねる者もいれば、「すみませんが、もう一度……」と小さな声で尋ねる学生や、こっそり自動車学校のテキストを読んでいる者もいる。

3.5 授業外の勉強

授業以外の勉強時間について、筆者は1授業時限当たり1時間半、少なくとも1時間程度の授業外の予習、復習の学習が望ましいと考えていたが、結果は期待通りとはいかなかった、表6に示す。52.1%の受講生が5番の30分未満を選んだ。

表6 授業以外の勉強

授業外の勉強時間	人数	%
3時間 またそれ以上	4	4.3
2時間 程度	4	4.3
1時間 程度	11	11.7
30~50分未満	26	27.7
30分 未満	49	52.1

外国語という科目は授業中に習った内容を、繰り返し復習しなければ身につけることができないし、自分のものにはならない。理想的な外国語の自習時間は1:2とされている。つまり、1時間の授業に対しては、予習・復習を2時間しなければならないのである。

望ましい「1. 3時間またそれ以上」と「2. 2時間程度」を選択した者は合わせて8人、8.6%である。少なくともはあるが、宿題を真面目にし、テキストの余白にメモをしたり、ノートをきちんととっている学生もいる。

また「3. 1時間程度」の授業外の勉強する者も11.7%存在する。

3.6 授業内容の理解度

授業内容が理解できたかどうか6番目の設問である(表7)。選択肢は4つである。

表7 授業内容の理解度

授業内容を理解した	人数	%
そう思う	13	13.8
ややそう思う	65	69.1
あまりそう思わない	13	13.8
そう思わない	3	3.2

答えは「2. ややそう思う」にかなり集中していた。「1. そう思う」と「2. ややそう思う」両項目を選んだ人数を合わせると、82.9%に達する。これは満足な結果である。しかし、理解できたとする基準は人それぞれ違うので、テストなどで判断する実際の理解度とは合致

しない可能性もある。

毎回授業中「分からないところがありますか」、「質問がありますか」と何回も尋ねるが、みんなおとなしく、全員何も言わずに、全く反応がない。

理解できないのは、共通教育の学生授業評価の「学生の疑問や質問への対応は充分でしたか」という質問に毎回「そう思わない」、「あまりそう思わない」、「どちらともいえない」を選ぶ学生がいるのだが、そもそも疑問、質問を出さないのでは、対応のしようがない。

しかし、学生たちが互いに会話の練習をする際、筆者が教室内を回っていると、時には質問も受ける。授業に関する感想に「生徒が質問しやすいよう、教室内をまわってくださったのは良かったと思います。ありがとうございました。」と書いた者がいた。他の学生の前で質問をするのは苦手な学生が多いと思われる。

3.7 学習目標の達成度

学習目標を達成したかどうかを7番目の問題である。選択肢は4つ。選択結果は表8の通りである。

表8 学習目標を達成したか

学習目標を達成した	人数	%
そう思う	6	6.4
ややそう思う	58	61.7
あまりそう思わない	28	29.8
そう思わない	2	2.1

シラバスに記載された授業の一般目標は、前期に発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能な程度の中国語コミュニケーション能力を養成することを目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通して、中国の現状もある程度理解してほしいという希望もある。後期は更に初級段階で必要な表

現を学習し、言葉の運用能力の向上を図る。

「基本的な表現、簡単な日常会話」という目標は、勉強する気があれば、決して到達できない目標ではないと思う。

「2. ややそう思う」が最も多く、61.7%を占める。「1. そう思う」と「3. あまりそう思わない」を選択した人はどちらも13.8%である。少数ではあるが、2.1%の学生は「4. そう思わない」を選んだ。

3.8 中国への認識、理解、興味の変化

設問の8番目は「この授業を受けて中国への認識、理解、興味などに変化がありましたか」である。受講生には中国の現状を理解してもらいたいし、中国語の勉強に対しても興味をもってほしい。そこで、テキストの内容を教えると同時に、毎回授業中のちょっとした時間を利用して、中国事情や中国文化に関するDVDやビデオテープを見せながら、中国を紹介することをした。その効果は、表9の結果により明らかになった。

表9 中国への認識、理解、興味の変化

中国への認識、理解、興味	人数	%
広がったり深まったりした	28	29.8
部分的に興味を持つようになった	54	57.4
受講前より興味が薄れた	1	1.1
受講前よりとくに変化はない	11	11.7

「2. 部分的に興味を持つようになった」という項目が1位で57.4%になった。2位の「1. 広がったり深まったりした」と合わせると87.2%を占める。しかし、「4. 受講前よりとくに変化はない」を選んだ者が11.7%、11人であった。

1人ではあるが、「3. 受講前より興味が薄れた」を選んだ学生もいた。おそらく中国人の筆者と若い日本人学生の視線、考え、趣味、関心などに相違があったのだろう。

3.9 中国語への興味の変化

今勉強している中国語について受講生の感想はどうか。興味はあるのか、受講前と現在を比べて変化があるのか。表9と同じ選択肢で中国語への興味について質問した。結果は表10の通りである。

表10 受講して中国語への興味の変化

中国語への興味の変化	人数	%
広がったり深まったりした	34	36.2
部分的に興味を持つようになった	52	55.3
受講前より興味が薄れた	0	0
受講前よりとくに変化はない	8	8.5

「中国語への興味の変化」と「中国への認識、理解、興味の変化」の回答結果は大体同じで、「2.部分的に興味を持つようになった」が55.3%を占め、1番多かった。「1.広がったり深まったりした」は2位で36.2%であり、「3.受講前より興味が薄れた」を選んだ者はいなかったものの、「4.受講前よりとくに変化はない」という項目は8人が選択、8.5%である。つまり、この8人の受講生にとっては「初級b」の授業を受け、毎週中国語を勉強して、中国事情や中国文化の紹介を見たり、聞いたりしても、中国語に対する興味には何の変化も見られなかったということである。これについて、後の3.14の部分にも検討した。

3.10.1 この授業の良かった点

「この授業を受けて良かったと思うところをいくつでも選んでください」と「この授業を受けて不満を感じたことをいくつでも選んでください」という複数回答できる10、11番の設問には6つの選択肢がある。これは受講生の生の声を聞き、来年度の授業に生かすための設問である。表11、12がその結果である。

「良かった」という項目の1位は「2.中国への認識、理解が深まった」で、59.6%である。

1位のわけは、おそらくその国の言葉を勉強する中でその国に対しての関心が深まったためであろう。

2位は「1.難易度が適切だった」の54.3%である。中国語初級「a」、「b」に採用している教科書がセットになっており、2つの授業で練習も、説明も繰り返し行うことにより、学生も理解しやすかったのだろう。

表11 この授業の良かったと思うところ

この授業の良かったところ	人数	%
難易度が適切だった	51	54.3
中国への認識、理解が深まった	56	59.6
授業の雰囲気が好き	22	23.4
ビデオが面白い	12	12.8
先生が丁寧に教えてくれた	47	50.0
良かったと思うことは何もない	4	4.3
無回答	1	1.1

「5.先生が丁寧に教えてくれた」の選択肢は3位で50.0%だった。中国語初級「b」は中国人教官の指導による授業である。「この授業では、できるだけ中国語による指導を行う。」とシラバスには記載されてある。

筆者の担当しているクラスでは教室用語以外、日本語で話すことが多かった。中国語では学生が理解できず、日本語では筆者の日本語レベルが低いために、学生が分かりにくいところもあろう。そのことが心配でもあったので、授業内容は特に工夫した。「とても熱心に指導してもらえて、すごく充実した授業を受けられたと思います」という学生の声もあるが、「5.先生が丁寧に教えてくれた」を選択したのは50.0%ではまだ充分とは言えない。

「3.授業の雰囲気が好き」を選んだ者が22名、23.4%であった。担当している4つのクラスでは私語等で授業が乱されることはほとんどない。むしろおとなしく、質問に答える声も聞こえないほど元気がないクラスである。

「やる気のない人がいると、授業が進まず邪魔だった。」という学生の意見もあった。授業の雰囲気を活発にして、集中力も高めるために、隣同士の会話練習も頻繁に行い、5、6人の班に分けて問題文を作ったり、翻訳をチェックしたりなどもしたが、教室が沈んだムードになることもあり、学生たちはもっと活発に授業に参加してもらいたい。

5位は「4. ビデオが面白い」である。中国事情や中国文化を紹介する一方で、比較的無味乾燥な発音練習の気分転換や頭の中をリフレッシュするために、中国の観光地、少数民族等を紹介する内容のビデオを何回か見せた。ビデオの内容に無関心なのか、中国のことに無関心なのかは分からないが、「4. ビデオが面白い」を選んだ人は12.8%に止まった。しかし「中国に関するビデオを見たので、中国に対して興味が持てました。」とか「毎回のDVDによって、今まで以上に中国というものが身近に感じられるようになった。」という学生の記述もあった。

その中で厳しかったのは「6. 良かったと思うことは何もない」を選択した者が4人(4.3%)いたことである。この授業を全面的に否定されたようであり、その4人の気持ちは分からない。

3.10.2 この授業の不満な点

「この授業の良かったところ」に対して「この授業を受けて不満に感じたこと」の質問も作った。結果は表12の統計である。

複数回答できる選択肢の中で、「6. 不満に感じたことは何もない」を選んだ受講生が68.1%、1位であった。「2. 内容が簡単すぎる」の3.2%に比べて、「1. 内容が難しすぎる」と思う学生が5分の1の20.2%を占めた。学生本人にとっては易しすぎるより、レベルに応じて適度な難易度であった方が、勉強する気になるのではないか。「少し難しかったけど、勉強する気になったので良かったと思う」、「前期よりも

表12 この授業を受けて不満に感じたこと

この授業に不満なところ	人数	%
内容が難しすぎる	19	20.2
内容が簡単すぎる	3	3.2
この授業がつまらない	4	4.3
練習、質問に充分対応してくれなかった	3	3.2
先生の指導が不適當だった	2	2.1
不満に感じたことは何もない	64	68.1
無回答	4	4.3

難しくなって、でも少し実践的になったので、難しかったけど、がんばろうと思った。」という学生の声もあった。

「3. この授業がつまらない」を選んだのが3人、3.2%と「無回答」を選んだ学生が4人(4.3%)であった。「無回答」なら選択肢以外に何か不満があるに違いない、無言の抵抗を感じた。しかし、何が不満なのか、記述欄は空白のままであった。そのほか、「4. 練習、質問に充分対応してくれなかった」を選んだのは3人、「5. 先生の指導が不適當だった」は2人であった。いずれも少数数ではあるが、この「5、4、3、6」項目を選択した人は合わせて12人になった。いつも不満を持って授業に参加していた学生には、授業自体が辛かったかもしれない。

3.11 この授業に対する満足度

この授業に対して表12の「不満」、表11の「良かった」の質問は具体的な選択肢から選ぶことから、或いは選択肢に回答者の意見が含まれていなかったことも考えられる。そこで、13番の設問「この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか」を作った。回答は表13の通りである。

表13 この授業は満足のいくものか

項目	人数	%
そう思う	29	30.9
ややそう思う	57	60.6
あまりそう思わない	7	7.4
そう思わない	1	1.1

「2. ややそう思う」を選択した受講生は半分以上で60.6%, 「1. そう思う」の人が30.9%。これら二つの和が91.5%である。「3. あまりそう思わない」が7人, 「4. そう思わない」が1人であった。「そう思う」と「ややそう思う」両項目で91.5%を占める。

3.12 教科書の満足度

いいテキストがあれば、授業も順調に進める。14番の設問は教科書の内容と構造に関する問題である。「初級b」クラスに使っているテキストは白帝社の「中国語スタンダードコミュニケーション篇」である。筆者もこのテキストの構成、作成に関わった者の一人である。今まで4年間（正式出版2006年）連続して使用したので、「初級b」の授業を担当する教師達は既にこのテキストに慣れたようである。受講生の反応は表14のとおりである。

表14 教科書の内容、構造

項目	人数	%
良い	34	36.2
やや良い	54	57.4
あまり良くない	6	6.4
良くない	0	0

上記に示したように, 「2. やや良い」が57.4%で1位であり, 「1. 良い」が2位という結果になった。「4. 良くない」を選択した学生はいない。「3. あまり良くない」の選択率が6.4%であった。しかし, 初めて出会う中国語のテキストであるので, 学生にとってその内容につい

での比較は難しい。今後, 「初級b」の授業を担当する教師たちにも教科書に関するアンケート調査をやりたい。

3.13 授業の進度について

「初級b」のシラバスのメッセージ欄に授業内容の難易度の他に, その進度について, 「シラバスはすべて予定であり, 学習状況により調整することがある。」とシラバスに記載されている。

シラバスは教員と学生との契約書であり, 教員はシラバスを守る義務があると言われるが, シラバスは新学期が始まる以前の経験, 実践によって定められたものである。したがって, その年度を受講生, 或いはクラスによって, 能力・レベル等が違う。そういったことから, 完全にシラバスの通りには授業を進められないこともある。そこで, 学生の様子を見ながらシラバスを調節しなければならない。

状況によってはシラバスより早いこともある, また遅いこともある。学生の反応は表15の通りである。

表15 この授業の進み具合

項目	人数	%
速い	16	17
ちょうど良い	78	83
ちょっと遅い	0	0
遅い	0	0

「2. ちょうどいい」が83%である。授業の進み具合は受講生に合っていたのだろう。「1. 速い」を選んだ16人のうちに11名が同時に表12の「1. 内容が難しすぎる」を選んでいった。速いので難しいと思ったのか, 難しいので速いと思ったのかはわからないが, 相関関係はあるだろう。しかし, 現在のペースで特に問題がないことがわかった。

3.14 授業の内容について

授業の組み立て、内容はいいか、興味はあるか。「授業の内容をどう思うか」というのが15番の設問で、選択肢は4つである。表16。

表16 授業の内容について

項目	人数	%
興味がある	29	30.9
ちょっと興味がある	61	64.9
つまらない	3	3.2
その他	1	1.1

1位は「2. ちょっと興味がある」で64.9%、「1. 興味がある」を選んだのは29人で、30.9%。「3. つまらない」と思う学生が3人、3.2%である。「つまらない」と思う学生から「内容は悪くないけれど面白くない」という意見であった。

しかし一方では、「1年間、中国語を勉強してみて、少し中国語が分かるようになり、中国に興味を持ったので、いつか行ってみたいです。」という声もあった。

3.15 中国文化の紹介について

中国へ関心を持ってもらうために、ビデオを見せる以外に自分の20年以上の中国の大学での仕事の体験（例えば、大学生たちの勉強、大学生寮、友達関係、就職などについて）を話したり、収集した資料や書籍などを利用して、中国のことを紹介したりした。これらに対する受講生の反応はどうであろうか。設問の17番は「授業中の中国、中国語文化についての紹介はどうでしたか」というもので、結果は表17の通りである。

表17中国、中国語文化についての紹介

中国、中国語文化の紹介	人数	%
多すぎる	1	1.1
ちょうど良い	57	60.6
足りない	32	34.0
つまらない	3	3.2
その他	1	1.1

「2. ちょうど良い」と答えた者は60.6%で、1番多かった。学生からは以下のような声もあった。

「中国に関するビデオを見ることができて、勉強になりました。」「毎回のDVDによって、今まで以上に中国というものが身近に感じられるようになった。」「たまにある中国雑学が良かったです。」「授業の前説がよかったです。」「中国語楽しかったです。ビデオとか切手とかさまざまな本当の中国にふれることができたのでよかったです。」

「3. 足りない」を選んだ者が34.0%もあったのは嬉しかった。「中国語の勉強をし始める前までは、テレビや新聞に書かれていることを鵜のみにしていた部分がありましたが、授業を受ける中で、中国のいいところ・美しいところをたくさん知れて、中国に興味をもちました。」という記述もあった。

これに対して全体に占める割合は少なかったが、「1. 多すぎる」が1人、「4. つまらない」も3.2%あった。何か抵抗感があるのかもしれない。けれども、やはり多くの学生の期待もあるため、今後も紹介するつもりである。

3.16 この授業に対するの評価

学校では普通、教師が学生に点数をつけるが、もし、学生たちが教師を採点したらどうであろう。18番は「この授業の全体的な評価はどうですか」という設問である。あえて「秀」という選択肢は設けず、「優、良、可、不可」4つの選択肢とした。結果は以下の表18の通

りである。

表18 授業の総体的な評価

授業の総体的な評価	人数	%
優	33	35.1
良	45	47.9
可	15	16.0
不可	0	0
無回答	1	1.1

「1. 優」を選んだ人が31名、35.1%であり、1位が「2. 良」で、47.9%である。合格の「3. 可」は3位16%である。概ねに「良」の授業と言える。無回答が一名あった。

3.17 授業の参加態度

もう一つ非常に興味を持ったのは、受講生はどんな態度でこの授業を受けているのかということである。表19は「あなたのこの授業に参加する態度はどうでしたか」である。

表19 この授業に参加する態度

授業の参加態度	人数	%
積極的	13	13.8
やや積極的	46	48.9
やや消極的	32	34.0
やむをえず	3	3.2

1位は「やや」の付いた「2. やや積極的」48.9%であった。2位の「1. 積極的」の13.8%と合わせると62.7%に上り、受講態度は全体的には積極的だと思う。

しかし、同時に「3. やや消極的」を選んだ34.0%の32人を無視できない。一つの教室で3分の1の学生が「やや消極的な態度」で授業を受ければ、クラス全体のムードに影響する。更には3.2%である3人が「4. やむを得ず」という態度で授業に臨んでいる。

ここで「4. やむを得ず」を選んだ3人の他の設問に対する回答も分析してみた。合わせて6つの設問に3人は同じように回答していた(表20)。

表20. 「やむを得ず」を選択した人

項目	選択肢	人数
三. 受講動機	3. 単位取得のため	3
五. 授業外の勉強	5. 30分未満	3
九. 中国語への興味の変化	4. 授業前と特に変化ない	3
十. この授業の良かったこと	6. 良かったことは何もない	3
十七. 中国, 中国文化の紹介	2. ちょうど良い	3
十八. この授業の評価	3. 可	3

3.18 自己採点

最後に1年近く中国語を勉強した結果を自己採点してもらった。その結果が表21である。

表21 自己採点した結果

採点した結果	人数	%
秀	6	6.4
優	43	45.7
良	27	28.7
可	16	17.0
不可	1	1.1
無回答	1	1.1

「2. 優」の評価をした者が一番多く、45.7%を占める。「3. 良」は2位、28.7%である。3位は「4. 可」で、16人。「1. 秀」は6人で、6.4%である。「秀・優」と自己評価した者は52.1%と過半数を占めた。その中で自らを「5. 不可」とした学生も一人いた。

アンケート用紙の冒頭に「前期の採点：秀、優、良、可、不可」の選択肢も設けた。前期の実際の成績評価と、このアンケートでの学

生の後期の自己評価を比較したものが表22である。

表22 前期の採点と後期自己採点の比較

採点の段階	前期採点	%	後期評価	%
秀	21	22.3	6	6.4
優	34	36.2	43	45.7
良	25	26.6	27	28.7
可	9	9.6	16	17.0
不可	0	0	1	1.1
未回答	5	5.3	1	1.1

実際の成績評価と学生の自己評価では、「秀」の人数が減少しているが、「優」は増えた。「良」のパーセンテージは大体同じである。

前期の採点の質問について、「2.優」にも「3.良」にも両方とも「○」をつけて、同時にその直ぐ傍に大きな「?」をつけていた人もいたので、それは未回答の類に分類した。アンケートを出す際に前期の自分の成績を覚えておらず、筆者に尋ねてくる学生もいたので、そこで、学生の回答した前期の成績は実際とは異なるところもあるかもしれない。

未回答の5人も自分の前期の成績を忘れたのか、或いは「不可」であったのかはわからないが、実際は前期に不可が2名いた。

以上のことから、中国人学生の方が日本人学生より点数を重視しているように感じた。中国では学生同士が主に点数について競い合う。「分、分、学生的命根。(点数が学生の命である。)」中国にはこんな有名な言葉もある。しかし、一方で最近では「60分万歳!(60点なら大満足。)」という目標を持っている大学生ももちろん存在する。

中国の大学では、返済不要の政府奨学金をもらえるかどうかは成績によって決まる。成績優秀な大学生は無試験で「保送生」として推薦され大学院に入学できる。公費交換留学生の場合も、希望者が多いため試験の成績順

で決まる。「僧多粥少(娘一人に婿八人)」という状態であれば、とにかく成績が優先され、就職も成績が重視される。そのため、中国では点数のために勉強する大学生が多く、点数の奴隷と言われる程である。したがって、アンケートに答えた受講生のように、自分の成績を忘れてしまった、成績が分からなかったというようなことは中国では有り得ない。それに比べると日本の学生はちょっと鷹揚に構えているようにも思える。

4 まとめ

アンケート調査の結果、分析から幾つかの問題点が明らかになったが、筆者はこれらの学生の声をできるだけフィードバックして質の高い授業にしたいと考えている。

4.1 授業外の学習時間と自主的な勉強

山口大学の授業評価が実施されることになって以来、毎回のアンケートに授業外の学習時間についての質問があるが、授業外学習の必然性、重要性は言うまでもない。特に初級中国語の段階では基礎を養成するために、授業外での予習、復習、宿題などが欠かせない。試験勉強だけでは力はつかない。

今回のアンケートからは、授業外学習の不足が一目瞭然であった。「30分未満」は52.1%、半分強であったが、仮に、「15分未満」、「授業以外に勉強しない」という選択肢も用意していれば、おそらくそれを選んだ者も多かっただろう。このような学習態度を持っている受講生が「この授業が難しい」とか「授業の内容が理解できない」とか「進み方が速い」などと意見を述べても、それは当然のことであろう。

「初級b」のテキストを作成した当初は受講生の自主勉強を促すため、単語の日本語訳も付けず、ポイント、例文などの日本語注釈も省略していた。学生たちが自らこれを調べるのが重要であると考えたためである。しか

し、学生からは「単語の意味とかのプリントが欲しい。」という要求があった。

だが、1年間の授業が間もなく終わろうという時期に、教科書に付いたCDが全く開封されないままの学生も珍しくない。自主学習に対する意識は低いようである。

勿論、このような結果には筆者の責任もあろう。進み方が遅い、宿題が少ない、要求や点数が甘すぎる等ということもあるかもしれない。また、もし学生に対する要求を厳しくしすぎたら、来年自分のクラスを選択する学生が少なくなるのではという恐れもある。これは、受講生のこの授業の選択理由、動機から分かったことであるが……。

4.2 学習動機とこの授業選択理由

「動機→行動→目標達成」は一連のプロセスである。

学習の動機がないなら、勉強する可能性がない。積極的な動機がないなら、うまく学習することもできない。その動機の違いによって、勉強のやる気も違う。今回のアンケートでは受講生たちの動機、表4の1位が「1. 単位取得の関係で、履修する必要があったから」であり、積極的な動機とは言えないが、単位が足りないため、卒業もできないことを心配する学生を責めることはできない。

よく分からないのは52.9%を占める2位の「1. 先輩や友人に履修を勧められたから」である。一体どのように履修を勧められたのだろう。「受講の動機」についての質問は2つ選択をするように求めたので、「履修を勧められた」を選んだ以外のもう1つの選択肢は何か、表23に示す。

表23 2つの受講動機について

選択1	選択2	人数
履修を勧められた	単位取得の関係で	21
履修を勧められた	中国に以前から関心を持つ	6
履修を勧められた	漢字があって、勉強しやすい	13
履修を勧められた	特別な理由はなく、ただ何となく	3

1位の「単位取得の関係で」と2位の「漢字があった、勉強しやすい」である程度わかった。これが先輩と友人に勧められた内容であろう。独断的ではあるかもしれないが、そうであれば残念な動機である。やはり単位が取得できさえすれば良いということだろうか。

一方でこんな学生たちもいる。例えば単位が要らないにもかかわらず、積極的に「中国語初級b」クラスに来て真面目に勉強する学生、2年連続毎週1時間以上研究室での個人指導を受ける学生、遅刻した理由を真剣に説明してくれる学生、中国言語文化研究会主催の中国語コンテストに自主的に参加した学生等である。教師として非常に喜ばしいことである。

4.3 学習目標

表8は「学習目標を達成したか」という設問に対する答えであった。結果はほぼ予想通りであったが、29.8%、3分の1弱の学生が「3. あまりそう思わない」を選択した。これは、本当に目標を達成していないレベルなのか、それとも謙遜だったり、自分に厳しいために敢えてそう答えたのか。

この疑問を持って、筆者がアンケート結果をクラスの学生たちに報告した。「シラバスに記載された目標を読みましたか？」と尋ねると、意外にも手を上げた人がかなり少なく、全員がニヤニヤしていた。なぜであろう？シラバスの目標を読んでいたものは30人と14人

のクラスではゼロ、24人のクラスで6人、26人のクラスで5人、合わせても、たった11人11.7%の学生であった。そもそもの目標が分からない状態で「学習目標を達成したか」ということをどう判断したのだろうか。その学習目標は学生たちが自分で大体予想したものであろうか。ほかのクラスで「シラバスに記載された目標を読みましたか?」というアンケートをしたら、結果はどうであろうか。毎年の学生の授業評価について一抹の不安を感じざるを得ない。

5. 今後の課題

学生授業評価は学生たちとの対話だと思う。その対話をまとめ、問題点に着眼し、「知識性を持って」、「理解しやすい」、「興味のある有意義な授業」になるように努力する。以下の改善点は今後の課題としたい。

1 関心・好奇心の喚起

勉強する科目に好奇心、関心が持ててこそ、勉強に原動力、学習意欲が生じる。今まで担当している「初級b」のクラスに活気がない現状を打開し、「関心を持っている」27.6%(表4)という割合が倍になるよう工夫したい。

2 授業外の勉強時間の延長

現在の授業外の勉強時間は表6に示したような、極めて少ないことは残念である。外国語の勉強はそれほど容易なことではない、教室での勉強だけでは、理解はできても身につかない。消化、吸収の時間がなければ、教科書を閉じた途端、何もできなくなるだろう。

3 積極的な学習態度と動機

勉強する動機が自分の教室だけでは、山口大学キャンパスだけでも、簡単には変わらな

い。社会のムードや環境の影響もあるだろう。教師としてできることは、自分のクラスを、ただ出席して椅子に座っているだけというような学生のいない、全員が集中し、やる気に溢れたクラスにすることである。学生が教師の質問に答えられなくても恥ずかしいと思わないように、意欲的に質問できるようなクラスにしたい。

どうすれば、受動的な学習態度から能動的な方向に転化できるかは難しく、大きな課題であると思う。受講生達がサークルに参加する時のような活力溢れる元気な雰囲気を作り出してくれることを期待したい。

(留学生センター 教授)

【参考文献】

- 片岡 新, 1991, 「高等学校における中国語教育」『中国語』日本中国語学会出版
- 宮本幸子, 1993, 「日本第二外国語的中国語教育的探討」『中国語学240』日本中国語学会出版
- 植村高久, 2000, 「共通教育学生授業評価(アンケート)の結果について」山口大学共通教育センター・センターだより
- 松井範惇, 2006, 「アメリカの大学教育システムは日本の大学に有用か」『大学教育』第3号, 山口大学・大学教育機構出版
- 何曉毅・斉藤匡史, 2007, 「初習中国語用共通教材開発の試み」『大学教育』第4号, 山口大学・大学教育機構出版

資料

2008年度「中国語初級b」についてのアンケート

このアンケートは「中国語初級b」の授業の現状を把握し、改善することを目的に実施します。御協力のほど、宜しくお願いいたします。

学部 学年 性別 男・女
前期の採点：秀， 優， 良， 可， 不可

下記の質問項目の該当する番号を□内に記入してください。

一、この授業を受講する以前の中国語の学習経験はどの程度でしたか？

(該当するものすべてを選んでください)

- 1, 以前習ったことがある (時間数) 2, 留学したことがある (時間)
3, 全くない 4, 中国に旅行したことがある (日数)
二、いま受講している科目は何ですか？ (該当するものすべてを選んでください)

- 1, 中国語初級a 2, 中国語初級b 3, 中国語入門 4, 中国語会話
5, その他 (科目名)
三、あなたが中国語の授業を受講した動機のうち、該当するものを2つを選んでください。

- 1, 先輩や友人に履修を勧められたから。
2, 自分の専攻分野にとって、履修することが望ましかったから。
3, 単位取得の関係で、履修する必要があったから。
4, 中国に以前から関心を持っていたから。
5, 中国語に漢字があって、勉強しやすいから。
6, 中国人の友達がいるから。
7, 中国の歴史、小説、漫画などを読んだことがあったから。
8, 特別な理由はなく、ただ何となく。

四、あなたはこの授業にどの程度出席しましたか？

- 1, 90%以上 2, 80~90% 3, 60~80% 4, 40~60% 5, 40%未満
五、あなたはこの授業において、予習・復習・朗読・宿題等を毎回どの程度行いましたか？

- 1, 3時間程度またはそれ以上 2, 2時間程度 3, 1時間程度
4, 30分~50分程度 5, 30分未満

六、あなたは授業の内容を理解できましたか？

- 1, そう思う 2, ややそう思う 3, あまりそう思わない 4, そう思わない
七、あなたはシラバスに記載された学習目標を達成したと思いますか？

- 1, そう思う 2, ややそう思う 3, あまりそう思わない 4, そう思わない
八、この授業を受けて中国に対する認識、理解、興味などに変化がありましたか？

- 1、受講前より中国への認識，理解が深まった。 3、受講前より興味が薄れた。
 2、受講前より部分的に興味を持つようになった。 4、受講前と特に変化はない。
 九、この授業を受けて中国語への興味に変化がありましたか？

- 1、興味が深まった。 3、受講前より興味が薄れた。
 2、受講前より部分的に興味を持つようになった。 4、受講前と特に変化はない。
 十、この授業のよかった点は何ですか（複数回答可）

- 1、難易度が適切だった 2、中国についての認識，理解が深まった
 3、授業の雰囲気が好き 4、ビデオが面白い 5、先生が丁寧教えてくれた
 6、良かったと思うことは何もない
 十一、この授業の不満に思った点は何ですか（複数回答可）

- 1、内容が難しすぎる 2、内容が簡単すぎる 3、授業内容がつまらない
 4、練習，質問に充分対応してくれなかった 5、先生の指導が不適當だった
 6、不満に感じたことは何もない
 十二、この授業はあなたにとって満足いくものでしたか？

- 1、そう思う 2、ややそう思う 3、あまりそう思わない 4、そう思わない
 十三、教科書の内容・程度はどうですか？

- 1、良い 2、やや良い 3、あまり良くない 4、良くない
 十四、この授業の進み具合はどうですか？

- 1、速い 2、丁度いい 3、ちょっと遅い 4、遅い
 十五、授業の内容はどう思いますか？

- 1、興味ある 2、ちょっと興味ある 3、つまらない 4、その他 ()
 十六、授業中の中国，中国文化についての紹介はどうでしたか？

- 1、多過ぎる 2、丁度いい 3、足りない 4、つまらない 5、その他 ()
 十七、この授業の総体の評価はどれですか？

- 1、優 2、良 3、可 4、不可
 十八、あなたのこの授業に参加する態度はどうでしたか？

- 1、積極的 2、やや積極的 3、やや消極的 4、やむをえず
 十九、もし自分を採点するとしたら以下の何番ですか？

- 1、秀 2、優 3、良 4、可 5、不可